

令和2年（2020年）10月31日（土）

一般国道20号（下諏訪岡谷バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

つかいせき ふじ塚遺跡 現地説明会資料

（一財）長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

ふじ塚遺跡は、砥川右岸の緩やかな南向きの段丘上（標高825～835m）に立地します。眼下に諏訪湖や下諏訪町の市街地が広がり、遠くには富士山を望むことができます（第1図・第2図）。

これまでに、下諏訪町教育委員会が町道拡幅に伴う発掘調査を行っていますが、ごく狭い範囲の調査であったため、遺構・遺物は発見されていません。

ふじ塚遺跡のなかにある「ふじ塚古墳」は遺跡の南東側にあります。



第1図 ふじ塚遺跡の位置



第2図 ふじ塚遺跡全景（東から撮影）

※発掘調査現場は足元が悪くすべりやすいので、転倒等にご注意ください。



享保 18（1733）年に高島藩5代藩主 諏訪忠林が領内の様子を知るために領内各村に命じて描かせた『諏訪藩一村限村絵図』という絵図があります。

この絵図のなかの、ふじ塚遺跡が位置する「東山田村」の箇所には、「藤塚と申す処」と書かれています。

江戸時代にはすでに、「藤塚」という名称で、その存在が知られていたようです。

「藤塚と申す処」

第3図 『諏訪藩一村限村絵図』（東山田村） 『諏訪史蹟要項 10』より

当初は「古墳」として調査を開始しました。表土と表土下位の黒色土を除去（第4図）し、マウンドを形成する硬化面で検出しました（第6図）。このマウンドは、黒色土・褐色土・黄褐色土の盛り土や礫を混合して作られていることがわかりました。さらにその盛り土の下や礫と礫の間から、手のひらほどの礫石経（れきせききょう・お経が書かれた石）がまとまって見つかりました（第5図）。

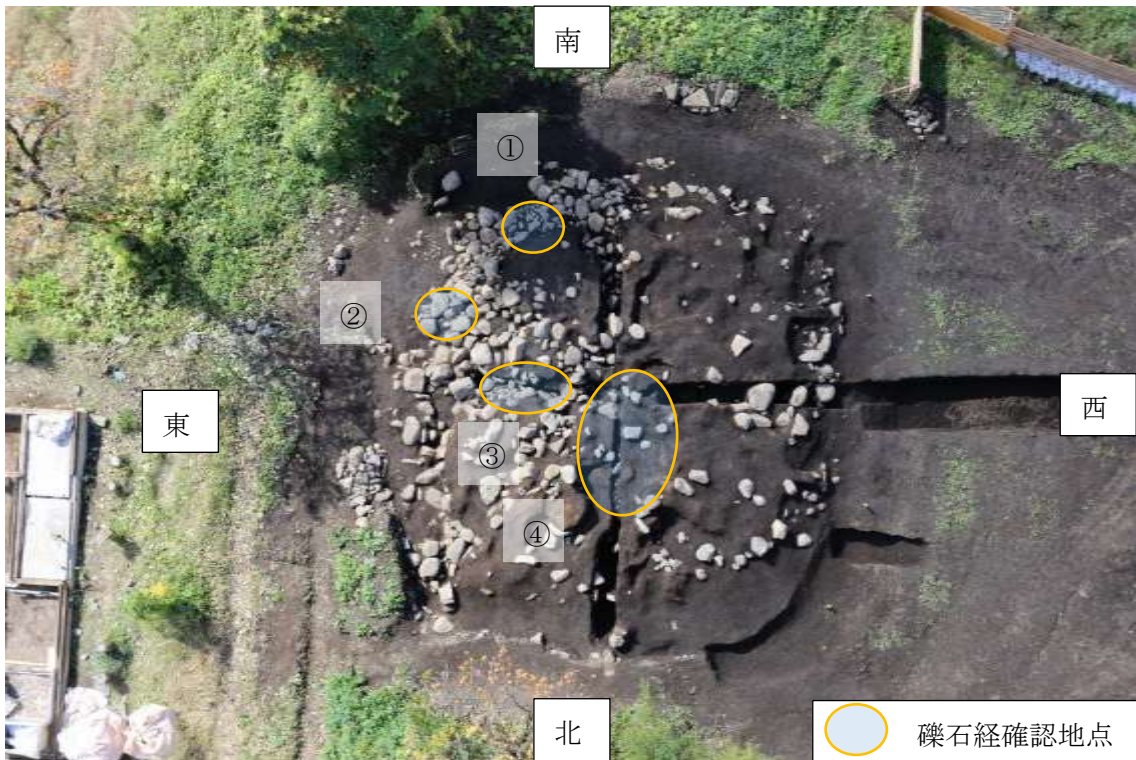
今のところ「ふじ塚古墳」と呼ばれるマウンドは礫石経を埋納した「礫石経塚」であると考えられます。県内において、中近世の経塚の発掘事例は非常に少なく、どのように礫石経を埋納したか分かる貴重な発見になります。



第4図 ふじ塚古墳調査前（西から）



第5図 礫石経



第6図 硬化面に伴う礫の検出状態（上空から）と礫石経出土状態（①②③④）